

平成25年10月24日

地域経済産業調査（平成25年7-9月期）結果

〈全体の動向〉

今期（7-9月期）の近畿経済は、持ち直している。

すなわち、生産は、太陽電池、自動車、住宅関連等が好調に推移し、スマートフォン・タブレット関連・建設機械も回復傾向にあることなどから、持ち直している。設備投資は、製造業では自動車、スマートフォン関連で、非製造業では物流施設、太陽光設備、新規出店等で新規投資への意欲があり、持ち直しの動きがみられる。雇用は、完全失業率や有効求人倍率が改善傾向を示しており、依然厳しいものの、持ち直しの動きが続いている。

個人消費は、高額品・軽自動車販売・国内旅行・レジャー関連が引き続き好調に推移。食料品・日用品などでは節約志向が根強く見られ、家電販売も厳しい状況が続いているものの、全体的に緩やかに持ち直している。

〈個別の動向〉

- （1）生産：持ち直している。
- （2）設備投資：持ち直しの動きがみられる。
- （3）雇用情勢：依然厳しいものの、持ち直しの動きが続いている。
- （4）個人消費：緩やかに持ち直している。

〈これまでの基調判断の推移〉

	平成24年7-9月	平成24年10-12月	平成25年1-3月	平成25年4-6月	平成25年7-9月
全国	➡	➡	➡	➡	➡
	持ち直しの動きが弱まり、足踏み状態の地域もみられる	弱含みで推移している	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
近畿	➡	➡	➡	➡	➡
	足踏み状態となっている	弱含んでいる	持ち直しの動きがみられる	持ち直している。	持ち直している。

（参考）今回、本調査の対象機関（85）、実施期間（平成25年9月2日～9月27日）

本件のお問い合わせ先)

近畿経済産業局総務企画部調査課長 尾仲

担当：勝谷、小谷 電話：06-6966-6004

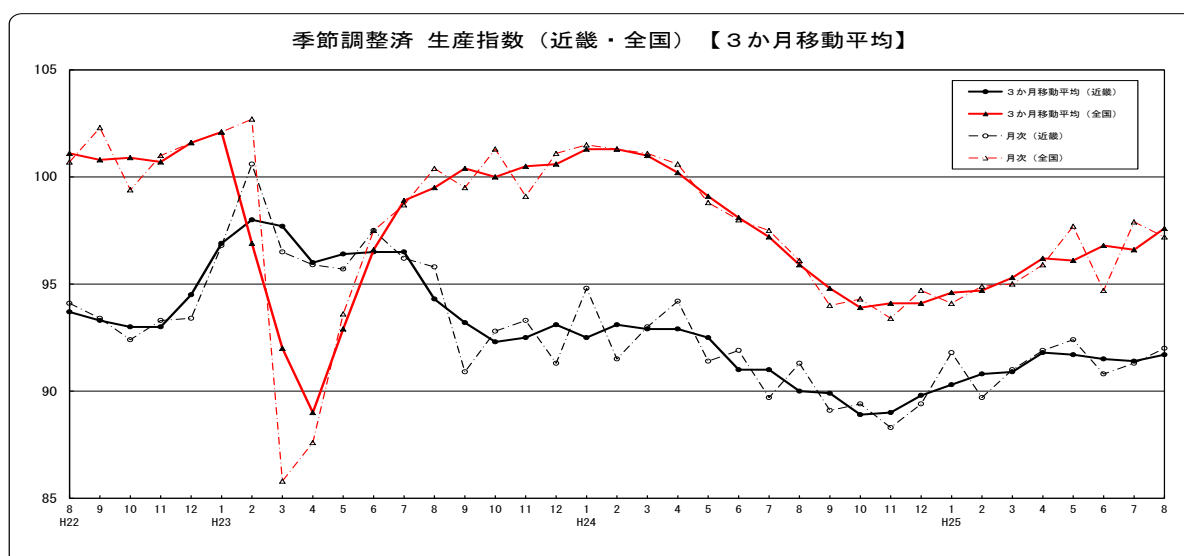
生産 ～持ち直している～

太陽電池、自動車及び自動車部品、住宅関連資材・機器等は好調。猛暑によりエアコンは増産。半導体等電子部品は、海外からの新製品受注の増加で工場稼働率が上昇。建設機械は国内需要が牽引して復調の兆し。一方、国内受注の減少等から、工作機械、プラスチック製品、繊維製品などは低調。

10月～12月に向けては、駆け込み需要等でさらに生産が増える見込みとの声が多い。

【企業の生の声】

- 太陽電池（住宅用・非住宅用ともに）は、好調である。【情報通信機器】
- 工場は、ほぼ100%レベルで操業。【輸送用機器】
- 粗鋼生産については、ほぼフル稼働の状況。自動車関係を中心に増産。【鉄鋼】
- 戸建て注文住宅の生産・出荷は、フル生産。【総合工事】
- 住宅着工数は回復。新築向けガス機器販売についても前年を上回る水準。【ガス業】
- 国内家庭用エアコンの生産は、前年を上回る水準へと計画変更。【電気機器】
- タブレット・スマートフォンなどの新商品が出るタイミングであるため、その取り込み需要で良くなっている。【電子部品・デバイス】
- 半導体部品は、1Qよりも2Qの方が上向いている。対前年比でも好調。海外スマホメーカーからの新製品受注が多くなっている。【電子部品・デバイス】
- 建機は、国内向け震災復興需要で引き続き増加傾向。【鉄鋼】
- △設備稼働率は9月から通常ベースに戻っている。国内は横ばい。【生産用機械器具】
- △弱電、一般機械、半導体製造装置、繊維機械、造船は良くない。【その他卸売業】
- ×弱電関係部品が全般的に落ち込んできている。生産量が減ったため、少し稼働率が下がっている。【プラスチック製品】
- ×依然としてユーザーの海外生産シフトにより、特に国内向けが低調で業況は非常に厳しい状況。【化学】



(注) 近畿：平成17年基準（平成17年=100）、全国：平成22年基準（平成22年=100）

設備投資 ～持ち直しの動きがみられる～

製造業では、自動車、スマートフォン関連で、非製造業では、物流施設、太陽光設備、新規出店、店舗改装等で新規投資の動きが一部見られるものの、当初計画どおり行う企業が多く、依然、企業の追加投資マインドは慎重。円高修正に伴う国内回帰の動きはまだ見られず、「地産地消」、「現地調達」のもと、引き続き海外に生産移管や生産能力増強を行うとの企業が多い。国内では、老朽化した建物・設備の維持更新・高度化対策に取り組む企業が目立つ。

【企業の生の声】

- 国内市場は、円安進行から輸送機など輸出産業大手を中心に業績の好転が鮮明となり、設備投資意欲は着実に大手から中小に拡大している。【業務用機械器具】
- スマホ向け部品製造メーカーの設備投資は堅調。国内は、回復基調と言えるのではないか。【電気機器】
- 今後数年間、物流分野への投資を増やしていく。【総合工事】
- 省エネ（空調設備やLED照明）への設備更新について、追加投資を決定。
【各種小売業】
- 新店舗への投資の増加。【各種小売業】
- △H25年度は、老朽施設の更新、合理化等の実施。【鉄鋼】
- △スマホ向け部品工場への生産設備増強は予定通り。【電子部品・デバイス】
- △海外も含め増産のための投資はほぼ終了。国内設備の老朽化対策は計画どおり行う。【生産用機械器具】
- ×工作機械の内需は、リーマンショックの半分程度しか戻っておらず、電気・精密関連が非常に厳しい。【生産機械器具】
- ×消費増税導入前にマシニングセンターの更新を検討したが、生産の先行きの見通しが悪いので、更新は凍結。【生産用機械器具】

全国企業短期経済観測調査（2013年9月）結果

		(前年度(前年同期)比: %)				
前年度 (前年同期)比	近 畿			全 国		
	2013年度 (計画)	上期(計画)	下期(計画)	2013年度 (計画)	上期(計画)	下期(計画)
全産業	5.4	5.1	5.6	3.3	8.7	▲ 1.2
製造業	4.3	2.7	5.7	7.0	7.7	6.3
大企業	5.5	4.7	6.3	6.6	5.0	8.2
中堅企業	▲ 18.2	▲ 30.0	▲ 4.8	1.9	2.6	1.3
中小企業	13.8	21.6	6.1	14.2	26.5	4.2
非製造業	6.1	6.9	5.5	1.3	9.4	▲ 4.9
大企業	6.7	7.4	6.1	4.4	11.8	▲ 1.2
中堅企業	4.9	10.1	0.6	▲ 2.5	2.4	▲ 6.8
中小企業	▲ 17.4	▲ 28.3	▲ 7.8	▲ 8.0	6.0	▲ 19.1
データ出所: 日本銀行(含む 土地投資額)						
(大企業: 資本金10億円以上、中堅企業: 同1億円～10億円未満、中小企業: 同2千万円～1億円) 2013/10/1公表						

雇用情勢 ～依然厳しいものの、持ち直しの動きが続いている～

雇用は、自動車を中心に業況が改善されてきており、パートの増員や事業部門間で過不足を調整する動きがみられた。また、海外事業展開に向けて、グローバル人材確保へのニーズが出ている。

一方、採用に関して中途採用は堅調なもの、中小企業では採用難の声も聞かれた。その他、建設業について、総じて職人不足が深刻な状況として懸念されている。

【企業の生の声】

○軽自動車の受注好調による生産上振れの生産部門の繁忙に対しは、社外社員でカバーを考えているものの、足元では自動車産業全体的に好調で、人の取り合いの様相。【輸送用機器】

○本社工場はフル生産。正社員に加えて、増産にはパートとシルバー人材で対応。

【電子部品・デバイス】（中小企業）

△エレクトロニクス関連（車載機器、スマホ向け）の業況は改善しつつあり、技能職正社員の人員余剰感は落ち着いてきている。これまで同様、グループ全体で柔軟に人員シフトを調整。【非鉄金属】

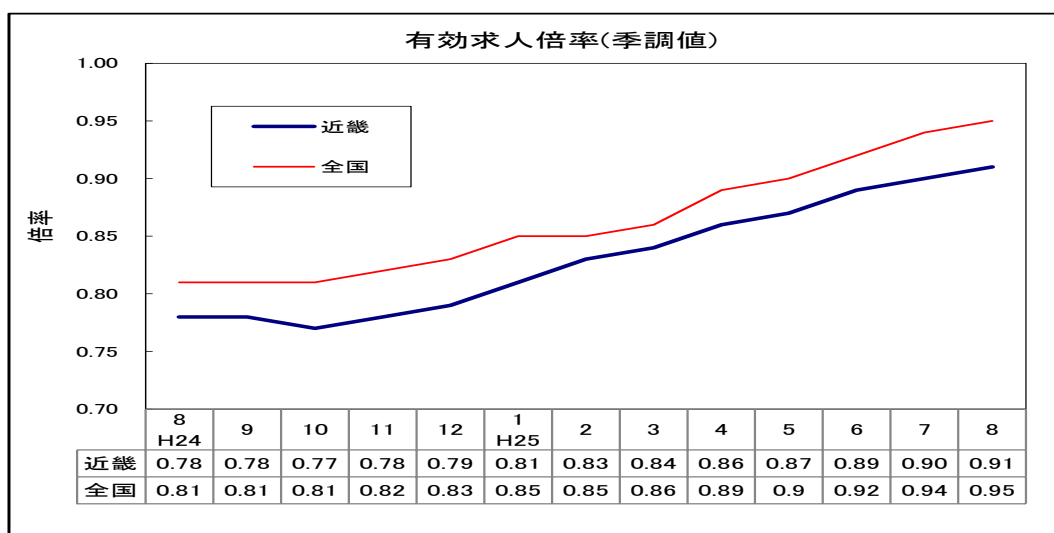
△新規事業（住宅・工場向け）にかかる生産拠点はフル操業。それ以外では80%程度の稼働率で推移。事業所により稼働率に差があることから、一部事業所間の従業員の融通を実施。【電気機器】

・海外事業展開に関わる人材が不足、キャリア採用、社内で計画的な育成プランを実施。【繊維工業】

・中途採用は増えており、応募すると求人も多くある。年間数十名程度を中途採用しており、昨年と比べると増えている。【情報サービス業】

・製造現場の人員が不足している。同業他社と比較しても給料は高いのに人が来ない。求人しているが応募がない。【金属製品】（中小企業）

・東京は大型ホテルやショッピングセンター、学校といった受注案件が多いため、人が東京に流れていることが人手不足につながっている。【総合工事業】



データ出所：厚生労働省

個人消費 ～緩やかに持ち直している。～

百貨店では時計、特撰品などの高額品は好調に推移し、自動車販売は高機能な軽乗用車が高水準を維持、家電販売では、エアコンなどの白物家電や薄型テレビ等にも明るさが見られ、旅行、レジャー施設も好調であるが、通信料金や食料品・日用品など日常必要とするものに対しては、依然として節約志向が続いている。

先行きについて、消費増税前の駆け込み需要に期待がある一方で、増税後の消費の落ち込みに不安も。小売業では、猛暑による出控えの影響もありオンラインストア販売が好調、今後注力する企業も見られる。

【企業の生の声】

- 高額品が好調に推移し、婦人・紳士ともにレザーやコートなど秋冬商材が活発に動いた。【各種小売業】
- 軽自動車の販売が好調。当期の生産量は前年を上回る。【輸送用機器】
- 家電は高気温に加え、買換需要もあり、エアコン、冷蔵庫、洗濯機など大型白物家電が大幅に伸長。【各種小売業】
- 今年2月以降、ホテルの稼働率・定員率ともに対前年比プラスが続いている。【その他事業サービス業】
- ×業況はあまり良くはない。特撰品の売り上げは良いが、利益率の高い主力の衣料品の不振が大きい。【各種小売業】
- ×生活防衛意識と景気に対する警戒感は依然強い。価格追求型と価値追求型の2極化が進む可能性有り。【各種小売業】
- ・懸念は消費税増税。上がる前に駆け込み需要はあるが、導入後の落ち込みの方が大きい。トータルでは良い影響はない。【各種小売業】
- ・ネットスーパーのお客は着実に増えており、上期は2桁の伸び。【各種小売業】

